

特 4.2

456

訂正
觀世流儀内百拾番

楊貴妃

105

楊貴妃

第一

我まはつらぬまのあはれく道し

尋ねん 甲 皇の唐土玄宗

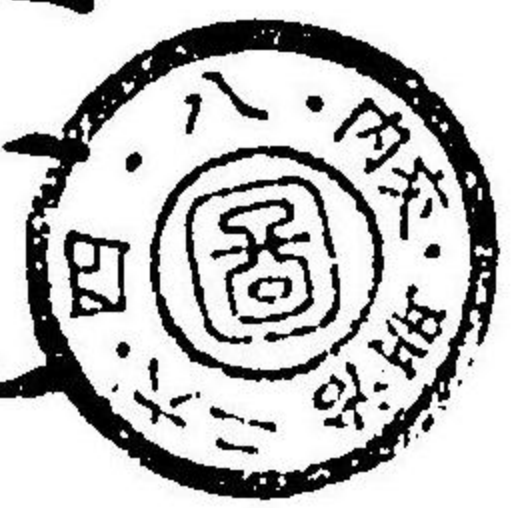
はへり方士あしはね



御君まつりことたぐくまへ

と中おのるにきん一艶と専ら

一給りよらと唇色しや双れ養人



をひたたまふ。楊家の娘くさるよふ
 く其名は楊貴妃と号しと。然る
 去子細ありてく。さるる原あてき
 中ては。解りては。帝歎りき。はひ
 主魂魄ありて。さる事れは
 宣旨よ。但せど。碧落下。黄泉ま
 て。尋ねさる。愛は。魂魄の有りと

志く。人。愛よ。未。蓬。兼。言。お。ま。ら。ん
 ゆるよ。此。度。蓬。兼。言。お。ま。ら。ん
 尋ね。か。ま。ほ。ろ。し。も。う。あ。り。て。く
 て。も。く。だ。ま。の。あ。り。て。く
 も。浪。路。を。り。き。て。行。舟。の。ほ。ろ。し
 み。一。鳴。山。乃。草。の。り。ね。れ。下。下
 夢。世。の。國。は。さ。る。よ。き。り。て。く。さ。る。程

よ薄葉宮よきてい此可きく
 妻専りやとぬ^{かん}有し教へは随う
 く薄葉宮よきていられん宮殿
 もしくとて交よ邊際もあ
 松教きくとしていあう七寶を
 ちりのめいり漢宮萬軍乃松ひ長
 生瀧山乃方根も是よのけり

あうらあうらあうらあうらあ
 お^い又教へ乃よく室中をまわらば真
 殿と額のうさるる宮あうを此可
 よ^俳回しよの由もあうらあ
 夜^{シテ}青の瀧山はまの園よとよ
 詠め初めあうらああ
 ひよて今うの薄葉は秋の洞よ揚り

七

七

ありし月陰もぬるかほちる孩
 うれあゝ恋れいしやあ甲斐唐の
 天子乃勅の使方士是迄と未たり
 お妃のうらよましまひり女行唐
 帝乃使と入行しよ家よ来物
 うと丸花の帳を押のきと玉乃
 簾さくまへ甲斐はさる

女雲のひんつ甲花のうほさき下花
 ちくたるは眼のうもつよ涙をほへ
 粉鈴上花下一枚ぬをわひ
 たるよりほひの下きりえ下花
 落のくれを針未央の柳乃みり
 も是よひうて増えま下る下や官
 乃粉黛の顔色乃あ下もあ下と

けふの徳慕乃波旧里を思ふ魂を
早也 撫ももさくまふもさるねる急
 歸かへりて養やしなひまきん女去いなりし津つ籠かごれ
 おささひ給女く 是こゝはあまりのままな
ちとてままりのししままりのああくく方かたままあ
まままたたひひままららばばささららぬぬ事ことの
 中ちゆうよよささららんんててんんのの世よももああららんんててかか

信し給ふまはらと君と人志れも
 契ちぎりの心こゝろのの成なりああららははらられれをを
三三三三 給たまふ女人ひとしし 是こゝもも理ことわりあり
中二九二二二二二二
 思おもひのああららしし抄しりををまましし其その初はつねねのの七しち百ひゃく
十のの末すえ二に日ひよよちちつつひひのの成なりああららしし
十天あまよよああららししのの程ほどううままくくのの成なりああららしし
一やあららしし地ちよよのの教しよりのまままま理ことわりの

枝となく母と極む事た
 下下は人よわし上あれたしとこれ
 うむは渡り上は事をも世平
 流精生死のさるひとて其た
 身の馬鹿よ留まりたたひの仙官よ
 至りつた戒も夜とさひ獨翅をか
 さまた理も枝朽てならまた色

七と多とたた同したのゆくた魚あたる
 終乃あふた戸頼したと語りた吟くたや
 古古岸岸はたりたひたてた出た舟た乃た伴たひたゆたる
 ちたとた思たうたうた事たしたれた知たいたうたあたん
 ちたのたさたろたうた秋たをたまたるた行た中たのたまたるた
 乃た等ためたらたりたあたりたした志たらたぬた身たよたな
 したらたるた志たをたまたてたがたあたおたをたお

上地
 ともや 躰山乃宮のうら
 月乃夜遊のお夜乃曲 具かり
 あり舞しとて 又おかり
 袖の 舞 被霞裳羽衣乃曲うよや
 霞裳うい乃曲うよや ねく被うれ
 女
 何れも 夢まほろ けたわれや
 地
 あれ小蝶乃まひあらん くれと去

幸もろむし 思入らうとさおやう
 乃始と志す 未幾あはれ流精更よ生
 糸の終りも 糸は二十五方の
 うら行まきう生者必滅のこころりよま
 ねんて天上乃五衰より 眞孫乃四切
 の様よ 小州乃千年つひよ 打ちぬ
 いかんや若少 不定乃らうひ 歎き乃

中のがき記とうもウキ我もそのかま
 邦家乃諸仙たるうは昔のちのこ
 してタりよ人界よ生れまきてキ揚家の
 深窓よ養われしマまはる人ありしよ
 君國名れつヤ心ウうミめシ出ル后宮
 宣めお死給ひヤ借ト若ト同ト穴ト乃トかシひ
 縁つミあシまシいたラうノイノ又シ此ノ鴻ノよ

ちウちウりノ海ノ珠アりシとモ母ヲ味カる
 おシれシうノわタらシ乃ト露ノだマらシよ
 あハひカへシりノおシりノ結キうシよシらシ
 上女トいハくモおシりノ恨ミあるヲ受ケて
 月ノ七日ノ夜ノ君トかハきシひつと
 乃ハ穢キんノ言ノ感モひ建くシよ
 ちウちウめシの際乃チちウめシの契り

夕よみ名跡八思ふありひあるよまし
 や月あれて夜つれ草中よあり
 ぬおれ乃あうりせわむ世え人よはう
 ひてまーよりそれとてものうまきえ
 ぬよ者うら歌うとまきく時きあ
 ううあれちうまきし羽衣か曲
 舞羽衣のまよくまけあううう
 女上
 女上
 女上

夕よみ名跡八思ふありひあるよまし
 や月あれて夜つれ草中よあり
 ぬおれ乃あうりせわむ世え人よはう
 ひてまーよりそれとてものうまきえ
 ぬよ者うら歌うとまきく時きあ
 ううあれちうまきし羽衣か曲
 舞羽衣のまよくまけあううう
 女上
 女上
 女上

新編のそとよの臺よりきんて
うきまのきんて

右之本者觀世大夫織部以章句
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町
山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

板權 所有

訂正者 觀世清廉

發行所 京都市上京區二条通御幸町西江入町
兼印刷者 檜常之助



